

1 経営理念(ミッション・ビジョン)

2 めざす子供像

I 教育に係るマネジメント	(1)人を育てる人が育つ学校 <教師> (2)児童の姿で教育を語る学校 <子供> (3)シンプルイズベストが定着した学校 <高い質>
II 組織に係るマネジメント	(1)ミドルリーダーが運営する企画委員会 (2)ミドルアップダウンによる組織運営・管理 (3)DCAPサイクルによるカリキュラムマネジメントの実施

柔軟に考える かしこい子
挑戦する たくましい子
集中する さわやかな子

「3自」大作戦！！
 ○「自」由な発想からスタート！※安心して許せる関係づくり
 ○「自」信をもって挑戦！※失敗は、次への学び
 ○「自」分の言動で表現しよう！※自己決定・自己表現

3 経営目標・評価項目・評価・達成状況

評価基準 達成度＝達成値÷目標値×100 A(達成度100%以上) B(達成度100～80%) C(達成度80～60%) D(達成度60%未満)

	評価計画						自己評価					
	中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成のための手だて	評価指標	目標数値	7月	1月	達成度	評価	短期経営目標の達成状況	改善方策
							達成値	達成値				
確かな学力	授業力を向上し、基礎・基本を確実に習得し、学びを自ら創り、振り返り、活用しようとする力を育てる。	国語科を中心とした研究を推進し、児童の主体的な学習の習得に向けた授業改善を図る	1	・「思考の方法」を活用した考えの交流を充実させる授業作りをする。	国語の単元末・学期末(思考・判断・表現)の得点が期待平均点を上回る児童の割合 標準学力テスト(国語)の正答率が、全国比で昨年度に比較して数値が伸びている児童もしくは、全国比で110以上の正答率を獲得している児童の割合	85%	%	%	%			
豊かな心	他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる。	相手意識をもったあいさつ・返事や心の交流が促進される取組を進める 道徳教育等、心が通い合う教育活動を充実する	2	・お手本となるあいさつや返事をしている児童を肯定的評価したり、学級や全校で紹介したりする。 ・委員会が、児童の頑張っているところを評価する取組を実施するなど、児童主体の活動を企画・実行できるようマネジメントしていく。	児童アンケート「自分から気持ちのよいあいさつ・返事をしていますか」、保護者・教職員アンケート「進んで挨拶をしている」での肯定的回答の割合	児童100% 保護者90% 教職員100%	児童…% 保護者…% 教職員…%	児童…% 保護者…% 教職員…%	児童…% 保護者…% 教職員…%			
				・学級の帰りの会で友達のいいところを発表をする時間をとるなど、児童がお互いに良さを認め合える活動を取り入れる。 ・全校児童が関わる活動を取り入れる。	「クラスの中にあなたの気持ちをわかってくれる人がいますか。」のアンケートで肯定的回答をする児童の割合	100%	%	%	%			
					「自分にはよいところがある。」のアンケートで肯定的回答をする児童の割合	80%	%	%	%			
健やかな体	目標に向かって、体力の向上・健康維持に努めようとする心身ともにたくましい体を育てる。	努力が結果となる体験を通して、児童の体力向上の意欲を高める 生活の基盤となる確かな生活習慣を身に付けさせる	3	・業間体育と体育の授業開始時のサーキットトレーニングに取り組む。取組の成果を視覚化し、評価・指導に活用する。 ・児童が主体となって体力向上の取組を企画、実行できるようマネジメント・評価していく。	50m走について、年度当初、1学期末、2学期、3学期に計測し、前の記録を更新した児童の割合	80%	%	%	%			
				・就寝時刻とメディア時間についての改善を図るために、自分の目標設定ができるようなしかけをし、家庭と連携を図る。 ・「生活チャレンジ」の結果を活用し、教科指導等において、生活習慣の大切さを価値付けた指導を行う。	就寝時刻とメディア時間について、自分が設定した目標を守れた児童の割合	90%	%	%	%			
信頼される学校	児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創る。	地域教材・人材の活用で、地域への関心・貢献の意欲を高める 一人一人の思いに寄り添い、安心して伸び伸びと力が発揮でき、児童・保護者・教職員が「行きたい」「行かせたい」、教職員が「勤めたい」と思える学校を創る。	4	・総合的な学習の時間や生活科で、校外学習に行ったりゲストティーチャーから話を聞いたりする。(各学級年5回以上) ・学習したことを発信する機会をつくる。(中・高学年は2回以上発信する) ・教職員も神石について学習し、地域を知る。	児童アンケートで、低学年は「神石のよいところ」を3つ以上、中・高学年は「神石の人・もの・こと」を5つ以上答えた児童の割合	100%	%	%	%			
				・日々の授業や特別活動等が児童の興味関心を大切にしたものになるよう、内容や教師の働きかけを工夫する。 ・学期に1回、児童アンケートを実施するとともに、個別に話を聞くことで児童の悩みを把握する。また、教職員で情報の共有をする機会(月1回以上)を設ける。	児童アンケート「通いたいと思いますか」、保護者アンケート「通わせてよかったと思う」、教職員アンケート「勤めたいと思いますか」の肯定的回答の割合	100%	児童…% 保護者…% 教職員…%	児童…% 保護者…% 教職員…%	児童…% 保護者…% 教職員…%			